

伊丹市立伊丹スポーツセンター整備方針（案） （屋外施設）

～スポーツ活動によるまちづくりの拠点施設に向けて～



目次

1. 整備方針策定の背景 . . . P 1
2. 施設整備の基本方針（コンセプト） . . . P 2
 －屋外施設の整備方針－
3. 陸上競技場について . . . P 4
4. 野球場について . . . P 6
5. テニスコートについて . . . P 8
6. 空きスペース等の有効活用について . . . P10
7. 整備スケジュールについて . . . P12

1. 整備方針策定の背景

背景

令和6年度末に策定した「伊丹市スポーツ施設ストック適正化計画基本方針」において、本市のスポーツ施設の中核施設である「伊丹市立伊丹スポーツセンター」は、令和7年度から令和10年度にかけて「長寿命化」や「機能改修」を基本とした整備を順次進めることとしており、外構を除く屋外施設について、当該基本方針の考え方を踏まえた整備方針を策定することとしました。

伊丹市スポーツ施設ストック適正化計画基本方針実施の全体スケジュール (TOYO TIRES 伊丹スポーツセンター関連部分)

施設	2025年度 (R7)		2026年度 (R8)		2027年度 (R9)		2028年度 (R10)	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
体育館(空調整備)				R8.6~	運用開始予定			
体育館(バリアフリートイレ整備)								
市立相撲場				R8.4~	スポセン相撲場運用開始			
陸上競技場	整備方針の策定 (R7策定予定)		整備方針に沿って 順次施設整備を実施					
野球場								
テニスコート								
ボール遊び施設整備								
室内プール	施設規模等のあり方検討後 整備方針の策定		整備方針に沿って 順次施設整備を実施					
クラブハウス・外構								

陸上競技場・野球場・テニスコート・ボール遊び施設の整備方針を策定

2. 施設整備の基本方針（コンセプト）

整備方針（コンセプト）

～次世代に誇りある施設を～

「いつでも」「誰でも」「気軽に」スポーツに親しむことができ
多くの人でにぎわうスポーツセンターの整備

- 「スポーツ・フォー・オール伊丹」のミッションを掲げ、「誰でも気軽に」取り組める生涯スポーツと、「競技力向上」を目的とした競技スポーツの両輪を推し進めていくことで、多様な世代が集う、スポーツ活動を中心としたまちづくりの拠点施設としての再整備を行います。
- 本市の強みである市民力を活かし、連携し支えあいながらスポーツの持つ力を活用し、地域課題の解消につなげる施設整備を行っていきます。

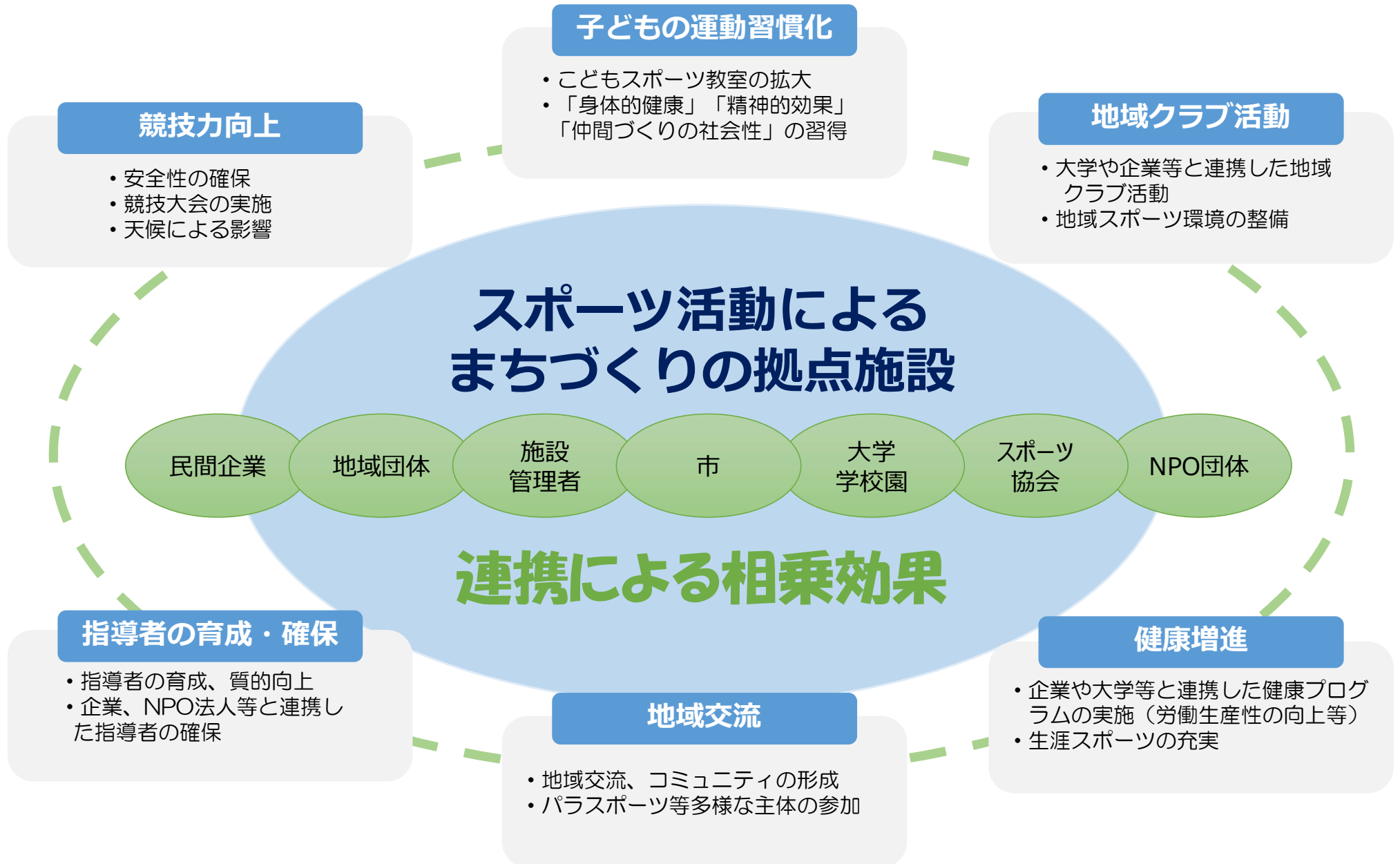


整備方針の策定にあたって

屋外施設の整備方針策定にあたり、国の動向や、これまで培ってきたTOYO TIRES 伊丹スポーツセンターのスポーツの中核施設としての特徴に加え、本市の多くのトップアスリートの輩出等の「競技スポーツ活動」や地域が中心となり誰もが参加できる生涯スポーツ活動の両輪が推進されている特徴があるなど、市民力を活かしたスポーツ活動を中心としたまちづくりの土壌を積極的に活用し、本市の魅力向上に寄与する整備とすることとしました。

整備方針を体現するための6つの視点と効果イメージ

整備方針を踏まえ、多くの団体が連携することによって、本市の魅力向上につなげる施設整備とする。



屋外施設の整備方針

- 陸上競技場について
- 野球場について
- テニスコートについて
- 空きスペース等の有効活用について
(ボール遊び施設)

3. 陸上競技場について

施設概要

建築年：1972年 敷地面積：22,877㎡



◇施設機能

- ・400m×8レーントラック
 - ・トラック内グラウンド（真砂土）
 - ・スタンド（3,299人収容）
うちコンクリートスタンド（704人）
- ※日本陸上競技連盟第4種公認陸上競技場

◇主な利用スポーツ等

- ・陸上
- ・サッカー
- ・ラグビー
- ・グランドゴルフ
- ・スポーツイベント
- ・他

◇利用者数と稼働状況

年度	R4	R5	R6
利用者数	45,853人	49,896人	57,734人

区分	R6稼働率
全時間帯	49.8%
平日(16時まで)	10.6%
平日(16時以降)	75.3%
休日	73.2%

◇収入の状況（R6）

単位（千円）

施設貸与	教室	合計
6,999	701	7,700

◇近隣市の整備状況

仕様	伊丹市	尼崎市	西宮市	宝塚市	川西市	三田市	猪名川町
陸上トラック	土	全天候型	整備予定	なし	なし	なし	なし
芝グラウンド	なし	天然芝	人工芝	人工芝	天然芝	人工芝	なし
夜間照明	非LED	LED	LED	LED	なし	簡易照明	あり

◇ 現 状 ◇

- ・土のグラウンドであり天候の影響を受けやすい。
- ・スタンドについては、老朽化が進んでおり、ベンチ等に損傷等もみられる。
- ・陸上競技やサッカー、ラグビーの公式試合等は、タータンのトラックや芝のグラウンドでの実施が主流であり、社会的劣化が生じている。
- ・近隣市の整備状況は、阪神北エリアに陸上トラックは整備されていない。
猪名川町を除き、天然芝又は人工芝のグラウンドを保有している。
- ・夜間照明の照度が低く、LED化が未対応である。
- ・収入は施設貸与によるものがほとんどであり、平日16時までの稼働率が10%程度と極端に低い状況となっている。

◇ 利用者・審議会等の主な意見 ◇

- ・市内には芝の公共のグラウンドが無いが、他では中規模な市でも芝グラウンドを整備しているところが多い。
育成年代から良いスポーツ環境を提供することは伊丹市の活性化に繋がると思います。地域移行も見据え整備してほしい。（市民の声）
- ・中学生の試合は人工芝になっているので練習環境から合わせて欲しい。（ラグビー・サッカー協会）
- ・土とタータンでは記録はかなり変わるため、競技力向上のために全天候型にして欲しい。（陸上協会）
- ・阪神北エリアにタータン整備されていない為、期待度・利用価値は高い。（スポーツ推進審議会）
- ・人工芝化されれば、パークヨガ等、通常屋内実施プログラムを敢えて屋外で実施し、通常とは異なる体験を演出できる。（同上）
- ・人工芝で安全性を確保し、高齢者や子育て世代、障がい者向けの運動プログラムの導入を検討してほしい。（同上）

陸上競技場の整備方針

整備工法等の検討

現状・課題を踏まえ、施設のメイン機能であるトラック及びフィールドについて、稼働状況の改善や競技力の向上、安全性の確保に加え、管理コストや施設改修コスト等を総合的に勘案し整備工法等を検討。

選択肢	トラック・フィールド	稼働率改善	競技力向上	安全性確保	管理コスト	改修コスト	備考
現状	土・土	△	×	△	△	○	社会的劣化を生じており、現状以上の利用や稼働率改善効果は望めない。
案1	全天候型舗装・人工芝	○	○	○	○	△	改修コストは最も高いが、点数は最も優れている。
案2	全天候型舗装・天然芝	×	○	○	△	△	天然芝の利用制限が年間200日必要。天然芝の日常の維持管理が膨大。

稼働率改善：フィールドの人工芝化により、スポーツ活動のみならず、幼児期のこどもの運動習慣化や健康増進につながる活用が見込め、稼働率改善につながる。

トラックの全天候型化により、陸上や障がい者スポーツでの活用が期待できるほか、トラック・フィールドの平行利用による稼働状況の改善も見込まれる案1を○とした。

競技力向上：各種球技の試合環境と同様の仕様（人工芝・天然芝）にすることで競技力向上が期待できるほか、全天候型化による記録向上等につながる案1及び案2を○とした。

安全性確保：暑さの影響は天然芝が最も有効であり、衝撃吸収性に優れているが、グラウンド表面に凸凹が生じやすい天然芝、

温度の上昇はあるが、グラウンド表面の均一性が維持され、不意な怪我は少なくなる人工芝などの特徴から案1及び案2を○とした。

管理コスト：土と天然芝は日常の維持管理作業が必須となり管理コストがかかる一方で、人工芝が最も管理コストが安価であることから案1を○とした。

改修コスト：改修コストについては、現状のままが最も有利であることから、現状を○とした。

検討の結果、全天候型舗装及び人工芝での整備が総合的に優れている工法となった。

加えて、老朽化しているスタンド部分や、照明設備の見直しについてもあわせて行うことが効率・効果的となった。

整備方針

全天候型競技場へ再整備

整備イメージ



区分	整備概要
トラック	全天候型舗装
フィールド	人工芝
夜間照明	LED化（照度見直し）
スタンド	改修

《スケジュール》

R8年度
実施設計

R9年度
再整備工事

4. 野球場について

施設概要

建築年：1971年 敷地面積：14,420㎡



◇施設機能

- ・両翼100m、センター115m
- ・内野：黒土 外野：天然芝
- ・スタンド（1,208人収容）
うちコンクリートスタンド978名

◇主な利用スポーツ等

- ・野球
- ・スポーツイベント 他

◇利用者数と稼働状況

年度	R4	R5	R6
利用者数	28,938人	33,258人	34,388人

区分	R6稼働率
全時間帯	64.5%
平日(16時まで)	50.7%
平日(16時以降)	67.3%
休日	80.0%

◇収入の状況 (R6)

単位 (千円)

施設貸与	教室	合計
17,261	21	17,281

◇近隣市の整備状況

仕様	伊丹市	尼崎市	西宮市	宝塚市	川西市	三田市	猪名川町
内野	黒土	黒土	黒土	真砂土	真砂土	人工芝	真砂土
外野	天然芝	天然芝	天然芝	真砂土	真砂土	人工芝	真砂土
夜間照明	非LED	LED	非LED	なし	なし	非LED	非LED

◇ 現 状 ◇

- ・本市最大（両翼100m、センター115m）の野球場であり、軟式野球のみならず、中高生の硬式野球ができる野球場となっている。
- ・休日の稼働率については80.0%となっており、高い稼働率になっている。
- ・外野の守備位置の天然芝が剥げており、安全面に懸念がある。
- ・スタンドについては、老朽化が進んでおり、ベンチ等に損傷等もみられる。
- ・夜間照明はLED化が未対応である。

◇ 利用者・審議会等の主な意見 ◇

- ・観客席のベンチが少ない。スタンド、フェンスの老朽化、修繕して欲しい。（市民の声）
- ・スピードガン表示をしてほしい。（利用者アンケート）
- ・野球場の外野芝の劣化による安全面や管理コストを懸念する。人工芝化やLED照明化の検討が必要。（スポーツ推進審議会）
- ・再整備にあたっては、野球以外の活用として、障がい者や子ども向けイベントなども検討してはどうか。維持管理に向けた仕様を選択すべきか。（同上）
- ・人工芝化とLED化により安全に使用でき、維持管理コスト削減に繋がればと思います。（同上）
- ・車いすでもスタンド観戦ができるようにスロープ化ならびにエリアを設置できないか。（同上）
- ・外野の天然芝は理想であるが、劣化補修のコスト面を考慮するならば人工芝化できないか。（同上）

野球場の整備方針

整備工法等の検討

現状・課題を踏まえ、施設のメイン機能である内外野のフィールドについて、稼働状況の改善や競技力の向上、安全性の確保に加え、管理コストや施設改修コスト等を総合的に勘案し整備工法等を検討。

選択肢	内野・外野	稼働率改善	競技力向上	安全性確保	管理コスト	改修コスト	備考
現状	黒土・天然芝	×	○	○	×	○	天然芝養生の為年間200日の利用制限がある。
案1	黒土・人工芝	△	○	○	△	△	多様な主体の利用、競技力向上が期待でき、利用制限もない。
案2	人工芝(塁周り土)・人工芝	○	△	△	○	×	塁間距離の違う少年野球やソフトボールなどの競技力向上に課題がある。

稼働率改善：外野の天然芝は養生期間の利用制限が生じる一方で、人工芝は天候にも強く他種目での利用も可能となる。黒土部分は天候の影響を受けるため、案2を○とした。

競技力向上：いずれの工法も各種大会等で採用されており、現状と案1は、少年野球から一般の野球まで対応可能であるため○とした。

内野部分も人工芝となると少年野球等の競技力に影響がでるため案2は△とした。

安全性確保：人工芝に比べ黒土や天然芝は、整備により表面の均一性を保つ必要があるが、衝撃吸収性に優れ、夏季の温度上昇抑制効果もある。

一方、人工芝は表面の均一性・安定性に優れるが、スライディング時の摩擦熱や夏季の温度上昇が避けられないため、現状と案1を○とし、案2を△とした。

管理コスト：黒土と天然芝は維持管理作業が必須となり管理コストが高くなるため×とした。

人工芝化により維持管理費は低減するが、案1は内野部分の整備コストは残るため△とし、全面人工芝となる案2を○とした。

改修コスト：改修コストについては、人工芝の単価が最も高くなるため、全面人工芝の案2を×、外野が人工芝となる案1を△、人工芝より安価な天然芝を使用している現状を○とした。

検討の結果、黒土及び人工芝での整備が総合的に優れている工法となった。

加えて、老朽化しているスタンド部分や、照明設備の見直しについてもあわせて行うことが効率・効果的となった。

整備方針

内野：黒土・外野：人工芝化・照明LED化

整備イメージ



区分	整備概要
内野	黒土
外野	人工芝
夜間照明	LED化
スタンド	改修

《スケジュール》

R9年度
実施設計

R10年度
再整備工事

5. テニスコートについて

施設概要

建築年：1972年 敷地面積：テニス 6,360㎡
東テニス 4,140㎡



◇施設機能

- ・テニス：1～8面 東テニス：9～13面
※定期使用は、1～4面（9～21時まで）
5～6面（9～17時まで）
※平成22年に東コート、平成26年に5・6コート
（クレイ⇒砂入り人工芝コートに変更）
- ・夜間照明：1～8面

◇主な利用スポーツ等

- ・テニス
定期使用、専用使用、教室、大会

◇利用者数と稼働状況

区分	R6稼働率
全時間帯(1～8番)	51.2%
全時間帯(9～13番)	53.7%

※定期使用を除く
※定期使用を含む全体稼働率は78.4%

年度	R4	R5	R6
利用者数	61,211人	59,720人	56,611人
定期使用以外(一般)	33,138人	33,403人	32,583人
定期使用会員数 (定員：360人)	272人	264人	251人

◇収入の状況 (R6)

単位(千円)

施設貸与	教室	合計
27,446	20,691	48,136

◇近隣市の整備状況

仕様	伊丹市	尼崎市	西宮市	宝塚市	川西市	三田市	猪名川町
サーフェイス	人工芝	人工芝	人工芝	人工芝	人工芝	人工芝	人工芝
夜間照明	非LED	LED	LED	LED	なし	非LED	非LED

※サーフェイスの「人工芝」は砂入り人工芝

◇ 現 状 ◇

- ・13面のテニスコートを保有しており、1～6面が定期利用、7～13面が一般利用となっている。
- ・利用者は、年間55,000人を越えており、定期使用は会員数、利用者数共に減少傾向にあるが、一般利用（専用使用・教室）による利用者は横ばいとなっている。
- ・収入の内訳としては、施設貸与及び教室事業収入が2千万円を超えている。
- ・夜間照明については、LED化が未対応である。
- ・サーフェイスの劣化が著しく部分修繕等を繰り返し対応している状況である。

◇ 利用者・審議会等の主な意見 ◇

- ・芝がはがれており、コートに損傷がみられる。（テニス協会）
- ・定期利用については費用対効果を分析したうえで再検討が必要。（スポーツ推進審議会）
- ・テニスは卓球と同様に生涯スポーツとして人気。（同上）
- ・テニス以外のスポーツやレクリエーションへの拡大も検討が必要。（同上）
- ・ユニバーサルデザインの導入、駐車場からの距離があるので、導線の歩道整備も必要。（同上）

テニスコートの整備方針

整備工法等の検討

現状・課題を踏まえ、施設のメイン機能であるサーフェイスについて、稼働状況の改善や競技力の向上、安全性の確保に加え、管理コストや施設改修コスト等を総合的に勘案し整備工法等を検討。

選択肢	サーフェイス	稼働率改善	競技力向上	安全性確保	管理コスト	改修コスト	備考
現状	砂入り人工芝コート	○	○	○	△	△	天候による使用中止が少なく、他種目利用の可能性もある。
案1	ハードコート	○	△	×	○	△	トップレベルの競技力向上には適しているが、足腰への負担が大きい。
案2	クレイコート	×	△	△	×	○	天候の影響を受けるほか、日常の維持管理が必須である。

稼働率改善：現状及び案1は、雨天からの回復が早く利用可能日数が多くなるが、オムニコートは他種目での活用事例もあることから○とした。

クレイコートは雨天からの回復が遅く×とした。

競技力向上：砂入り人工芝はバウンドが適度でラリーが続きやすく生涯スポーツとしての競技力向上には適しているため○とした。

ハードコート及びクレイコートは、国際的な競技会でも採用されていることから△とした。

安全性確保：砂入り人工芝については、衝撃の吸収性に優れ。ハードコートに比べ足腰への負担が小さく、若年層やシニア層への体の負担が少ないため○とした。

管理コスト：砂入り人工芝コートは、ハードコートに比べブラッシングや砂の補充等の日常管理が必要となることから△とした。

クレイコートは、水まき、ローラーかけ、ブラッシングなど管理コストが最も大きいため×とした。

改修コスト：改修費用は、クレイコートに比べると、砂入り人工芝コート、ハードコートのいずれも高くなることからクレイコートを○とした。

検討の結果、砂入り人工芝コートでの整備が総合的に優れている工法となった。

加えて、機能向上や管理経費の効率化につながる照明設備の見直しについてもあわせて行うことが効率・効果的となった。

また、施設改修にあわせ、定期使用の運用見直しを行うことで、稼働状況の改善を図る必要がある。

整備方針

人工芝改修・照明LED化

整備イメージ



区分	整備概要
サーフェイス	砂入り人工芝改修
夜間照明	LED化

《スケジュール》

R8年度
改修工事

※あわせて定期使用コートの運用を見直す

6. 空きスペース等の有効活用（ボール遊び施設）について

施設概要

<屋内プール北側>



<テニスコート北側>



◇近隣市の整備状況



(尼崎市：武庫川河川敷)



(宝塚市：下ノ池公園)

◇近隣市の整備状況



(西宮市：中央運動公園)

◇ 現状 ◇

- ・「伊丹市スポーツ施設ストック適正化計画基本方針」において、「公共施設のフリースペースや空きスペースの活用」や「将来世代等の市民ニーズを踏まえた施設整備等」を推進していくとしている。
- ・スポーツセンター内においては、プール北側・テニスコート北側の空きスペースや、定期使用者専用の壁打ちコートを保有している。
- ・他市では、誰もが気軽に遊べる空間があり、多くの若年世代の利用がなされている。
- ・市内で、自由にボール遊びのできる場所を求める声がある。

◇ 利用者・審議会等の主な意見 ◇

- ・バスケットゴールがある公園が少なすぎる。気軽にバスケが楽しめる公園を増やして欲しい。(市民の声)
- ・小中学生等がスポーツの練習を屋外でできる場所がない。バスケットゴールや壁あて等できる設備がほしい。(利用者アンケート)
- ・スポーツが身近にできる環境で、将来的にアスリートとして活躍できる人材が生まれる可能性が広がると思います。(スポーツ推進審議会)
- ・屋内プール北側や既存のテニス壁打ちコートを球技エリア(バスケリング)などに活用。(同上)
- ・体育館前の植樹花壇が必要か。クラブハウス周辺のスペースと合わせて瑞ヶ池公園の健康遊具のような健康増進エリア機能を設置。(同上)
- ・体力差のある子どもたちが同スペースでボール遊びすることについて、利用時間設定等が必要と考える。(同上)

ボール遊び施設の環境整備等方針

環境整備等方針

「伊丹市スポーツ施設ストック適正化計画基本方針」における「公共施設のリースペースや空きスペースの活用」や「将来世代等の市民ニーズを踏まえた施設整備等」を進めると共に、ボール遊びができる環境整備として、スポーツセンター内の空地にバスケットゴールを設置する他、既存のテニスコートの壁あて施設を一般開放に運用を見直す。

バスケットゴールの設置 テニス壁あて施設の一般開放

<屋内プール北側>



《整備概要・スケジュール》

バスケットゴールの設置
(令和8年度運用開始予定)

<テニスコート北側>



《整備概要・スケジュール》

テニスコートの壁あて施設一般開放
(令和8年度開放開始予定)

《運用方法案》

施設使用料 : 無料 利用者 : 誰でも可能
利用可能時間 : 9時～日没程度

7. 整備スケジュールについて

整備スケジュール

TOYO TIRES 伊丹スポーツセンターの屋外施設における令和8年度以降の整備スケジュールを示します。

施設	2025年度 (R7)		2026年度 (R8)		2027年度 (R9)		2028年度 (R10)	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
陸上競技場	整備方針の策定 (R7策定予定)		実施設計		再整備工事 フィールド:人工芝 トラック:全天候型化 スタンド改修・照明LED化			
野球場					実施設計		再整備工事 内野:黒土 外野:人工芝 スタンド改修・照明LED化	
テニスコート			改修工事 サーフェイス改修 照明・LED化					
ボール遊び施設整備			バスケ ゴール設置 テニス 壁打ち開放					

※ 整備スケジュールについては、現時点での予定であり今後変更する可能性があります。